

会誌を良くする為に

土 岐 博*

現在、外国にて理論物理を研究しているのですが、石油に替わるエネルギーの必要性を痛感し、遅まきながら今年（昭和55年）の最初から勉強を始めました。5月に国際会議があり一時日本に帰国した際にエネルギー・資源研究会の発足を知り会員にならせて致しました。外国で生活している現在、会誌「エネルギー・資源」を読む事のみが会員として出来る唯一の事であり又楽しみでもあります。第一・二巻を通読し多くの知識を得、大いに勉強させて致しました。日本での代替エネルギーへの研究を頼もしく感じております。

会誌を読んでいて全て良く書けていると思われませんが、2・3感じる所があり会誌を良くする為に、下記の事を今後考慮される事を望んで筆を取りました。

1. 最近の日本の雑誌の流行かとも思われますが、必要以上にカタカナで表現された英語の単語が使われすぎているのではないかと思います。エネルギーの問題は一つの専門分野の人達が共通の言葉で話し合うだけで解決されるものではないでしょう。むしろ分野の違った人達が集まって全く違った観点から情報を交換し議論し合って始めてあるべき方向に進んで行くものでしょう。この会誌がその情報交換の大きな部分を果たす場であるものと信じております。そういう意味からも仲間同志で日常使っていて良く通じ合っている言葉でも他の分野の人達には非常に分かりにくい場合もあ

る事を頭にいれてなるべく一般に使っている言葉を使って表現する事が大切かと思われま。その一つがカタカナで表現された英語であると思えます。必らずその単語に対応した日本語があると思えますが、日本語を使っておかしい場合にはその後カッコをつけてアルファベットで表現した英語でおぎなえば良いのではないのでしょうか？

2. 著者の名前に*印をつけてその所属・地位が現在書かれています但其地位はそんなに必要なものではないと思われま。一般の人でもエネルギーに興味を持っている人は多くいる事だし、会誌に寄与する機会も多く与えられるべきだと思います。そんな事はないかと思われまが一般の人達、例えば学生が、その事により投稿する気をなくしている可能性も考えられます。次にはその所属に因してですがその名称だけではなく、大学・研究所・会社等の完全な住所をも記載する方が良いのではないのでしょうか？内容を読んで面白かったり、分からないからもっと説明してほしいと思ったりした場合に直接著者に連絡を取りたいと感ずる事も多くある事だと思われま。

3. これは簡単な事ですが印刷のあやまりが多くありすぎると思われま。これは著者に対しても読者に対しても失望を与えるものなのでもう少し注意を払う必要があると思われま。

以上会誌をよくする為に特に感じた事を書きました。これらの事が今後考慮される事を強く望んでおります。

* Cyclotron Laboratory, Michigan State University, East Lansing, Michigan 48824 USA.

開 発 雑 感

小 笠 原 光 聰*

企業内で開発研究に携わる中で、最近感じていることを二、三述べさせて戴く。これらは、エネルギー・資源技術の開発に関してもそのまま考えられることであろうと思う。

(1) ソフトウェア技術とハードウェア技術との関係システム工学という学問が世に登場してから既に久しいが、最近この言葉が一時ほどは聞かれなくなって来たように感ぜられる。エネルギー・資源問題